

第8回WCGALPの紹介

鈴木 三義
帯広畜産大学

学会の歴史

WCGALPとはWorld Congress on Genetics Applied to Livestock Productionの略で世界の家畜遺伝・育種の研究者が一堂に集まる学会である。最近の大会参加者は、千名以上となり、家畜遺伝育種の専門的学会としては最も参加者が多く、権威のある学会になっている。この学会を歴史的に振り返ってみると、第1回と2回は1974年と1982年にスペインのMadridで開催され、その後は4年ごとに世界を回るようになり、第3回は1986年にアメリカのNebraska州のLincolnで、第4回は1990年に英国のEdinburgh、第5回は1994年にカナダのGuelph、第6回は1998年にオーストラリアのArmidale、第7回は2002年にフランスのMontpellier、そして、今回、第8回目が2006年にブラジルのBero Horizonte（きれいな水平線という意味らしい）で開催された。開催場所は、大都市というよりは中都市が多く、今回もブラジル第3の都市で、アメリカのサンフランシスコに似た坂の多い、きれいな町であった。

大会の内容と雰囲気

今回は34のセッションに分かれて、多くの話題が議論されたが、表1には論文数の多い順にどの様なセッションがあるかを示した。家畜種では、乳牛や水牛が最も多くの演題があり、続いて、肉牛、豚、家禽、…、魚類なども含まれる。研究分野別では遺伝子を扱うものから病気、繁殖、行動、飼料効率など様々である。プロシーデングは、一般論文が論文形式で4ページ以内、基調講演はその2倍程度の長さの文章とページ半分程度のアブストラクトが登録時に必要である。一応、発表する為には、各セッションのコーディネータの論文審査を受ける必要がある。しかし、世界大会では旅費が確保できない等、何らかの理由で来れない発表者もある程度はいるようで、プロシーデングには載っているが、実際には来ていない人もいる。この大会のプロシーデングは厚く部数が多くなり過ぎたため、今回からは冊子での配布を止め、PDFによるCDROMへの焼付けたものみの配布となった。

私はこの大会に第6回のオーストラリアから参加しているが、大会の様子を前2回の様子も踏まえて簡単に説明することにする。前日（8月13日）から始まる登録を除くと、月曜日（14日）から金曜日（18日）の5日間で行われ、1日中缶詰で、朝の8時位から夜は7時（あるいは9時位になる場合もある）までのプログラムが用意されている。しかし、5日間ともこのようなハードな訳ではなく、中日（水曜日）の午後はミッドコングレスツアーがあり、地方の風光明媚な場所や歴史的な場所に案内するオプションツアーも用意されており、参加者同士の交流だけではなく、地域との交流や親睦も計画されている。また、この学会の特徴は、最終日のさよならパーティのみならず、毎日の昼食も参加者が一堂に会して2時間程度かけて行うという習わしがある。この習わしは、この学会の最初の開催がスペインであることにも関係しているようである。会場はコンベンションセンターで行われ、6つの会場に分かれ同時進行で行われたため、皆勤賞でもプログラムの6分の1しか聞けないことになる。今回は日本から遠いせいもあり、日本からの参加者は過去2回に比較して非常に少なく、多分5名程度であろうと思う（正確には調べてはいない）。

ブラジル人の気風

大会がはじまってしまえば、前2回に比較して大会運営そのものではそれほど戸惑うことはなかった。しかし、旅券の予約などでは、大会間際になり地元の航空会社が倒産したりして、航空券の変更をやむなくされた人も多く、また、飛行場からのホテル（約1時間程度の距離）の移動に迎えバスの不手際などで半日も掛かってしまうことやさよならパーティでの手際の悪さなどブラジル人の大らかさというか時間のルーズさが目立ち、あまり評判の良い大会にはならなかったようである。最後に次の大会はドイツで4年後に開かれることが報告され大会の幕は閉じられた。

第8回WCGALPの紹介を簡単に行ったが、ドイツの次はアジアでの開催が有力視されている。日本、中国、韓国あたりが候補とされるとおもうが、その誘致には

この分野での世界に向けた研究活動も加味される。したがって、もし候補地となることを目標にするならば、関係者（大学はもとより、公立や民間の研究機関など

の研究者）の個々人の努力も必要だが、国を挙げての一丸となった研究協力や体制整備も必要とされる。

表1 演題数の多い順位で並べた34のセッションと論文数

セッションタイトル	論文数
Dairy cattle and buffalo breeding	93
Beef cattle breeding	91
Gene discovery, marker and gene assisted selection	66
Pig breeding	50
Disease resistance	37
Meat sheep and goat breeding	35
Management and animal genetic resource	34
Software	33
Poultry breeding	32
Advances in statistical genetics: estimation and prediction	30
Growth, development and meat quality	27
Utilization of breed resources	24
Reproduction	23
New QTL detection methods	23
Statistical Genomics and Bioinformatics	23
Fiber sheep and goat breeding	21
Linkage disequilibrium mapping	20
Dairy sheep and goat breeding	17
Breeding of non-conventional and regional species	17
Adaptation to tropical environments	17
Design of breeding program	17
Advances in longitudinal, spatial and functional data analysis in animal breeding	15
Fish and shell fish breeding	14
Horse breeding	13
Behavior	13
Advances in statistical genetics: frontiers	13
Feed intake and efficiency	12
Methods and approaches for the evaluation of breeding objectives	12
Contributions from laboratory animals	10
Lactation	8
Role of new reproduction techniques	8
Advances in selection theory	7
Transgenic animals	6
Education and training	4